

# 手練

S H U R E N

第 13 号



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会



## 表紙

会報名の手練（しゅれん）とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

# 目次

■ 檜皮採取者(原皮師)養成研修 第17期生 開講式 .....	2
● 来賓祝辞 文化庁文化財部参事官付(建造物担当)修理企画部門 文化財調査官 黒坂 貴裕 和歌山県教育庁生涯学習局 文化遺産課 主査 川戸 章寛 京都府教育庁指導部 文化財保護課 建造物担当課長 鶴岡 典慶	
● 講師祝辞 公益社団法人 全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤 佐雅夫	
● 激励の言葉 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課 課長 中川 慶太	
■ 平成29年度 文化財研修会 .....	7
■ 文化財屋根葺土養成研修 第22期生 後期研修 始まる .....	8
■ 平成29年度 茅葺初級研修 後期開始 .....	10
■ 檜皮採取者養成研修 第17期生 及び 平成29年度 檜皮採取中級研修 始まる .....	11
■ 茅葺師養成研修 第4期生 後期終了 .....	12
■ 平成29年度 茅葺中級研修 .....	13
■ 平成29年度 茅葺きフォーラム 開催 .....	14
■ 平成29年度 檜皮採取技術査定会 .....	16
■ 文化財屋根葺土養成研修 第22期生 後期研修 終了 .....	17
■ 主任文化財屋根葺土 検定会 実施される .....	19
■ 平成29年度 檜皮採取者(原皮師)第17期生 終わる .....	20
■ 平成29年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 終わる .....	21
■ 準会員 名簿 .....	22
■ あとがき	

# 檜皮採取者(原皮師)養成研修 第17期生 開講式

期日 ■ 平成29年4月12日(水)

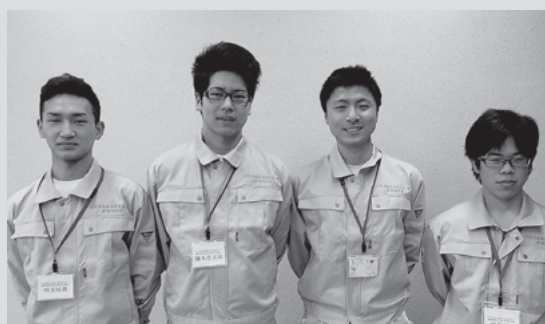
会場 ■ 京都市文化財建造物保存技術研修センター

檜皮採取者(原皮師)養成研修第17期生の開講式を執り行いました。多数の御来賓、関係各位の御臨席のもと、研修生4名は緊張した面持ちで式に臨みました。

日本の歴史的遺産を次世代に継承するためには、伝統技術・技能の継承がなければ成り立ちません。今後、研修生は、決められたカリキュラムに沿って研修を受けることとなりますが、文化財建造物の保存を担う者としての自覚と誇りを持ち、気を引き締めて技術の習得に努めていただきたいと思います。

## [檜皮採取者(原皮師)養成研修 第17期生]

- 時長 祐貴 / 岩崎社寺工業(株)
- 橋本浩太郎 / (株)河村社寺工殿社
- 松島 俊一 / 栗山木工(有)
- 伊藤 元輝 / 谷上社寺工業(株)



京都市文化財建造物保存技術研修センター前にて

## 来賓祝辞

文化庁文化財部参事官付  
(建造物担当)  
修理企画部門

文化財調査官 黒坂 貴裕



檜皮採取(原皮師)養成研修第17期 開講式にあたり、一言お祝いを申し上げます。

まず、私は昨年、海外20ヶ国ほどの文化財に関わる専門家らの前で、日本の歴史的建造物やその修復について発表する機会がありました。その中で海外の専門家が最も驚き、深い興味を示していたのが檜皮葺の屋根でした。一枚一枚の緻密な葺き重ねによって構成される、優美で繊細な曲線を描く檜皮葺の屋根は、世界の中でも非常にユニークな建築であり、魅力的な伝統技術なのです。さらにその美しさを檜の樹皮という再生可能な資源で作り立たせているという点は、海外の専門家に言葉を失わせるほどでした。

さて、これまでの文化財保護は、保存と活用という文化財保護の両輪のうち、保存に重点を置いてきたと言っていると思います。文化庁は今年度から保存修理事業の情報発信の推進をすることとしました。一般的には保存修理が始まると、観光客にとってはいわゆる名所旧跡の一つが閉鎖されるということでしたが、これからは保存修理事業中でもその文化財建造物の魅力を失うことなく、一つの活用をしていこうということです。その中で、檜皮採取や檜皮葺の魅力を発信することは、伝統技術を継承することの意義を国民のみならず世界に認めさせて、次の保存修理事業に繋げていこうということなのです。

このサイクルを成り立たせるためには、研修生の皆さんが、今回の研修で技術を身につけ、今後自己研鑽に努めていただくことで、日本が誇る伝統技術をしっかり受け継がれることが必要です。まずは、怪我をしないという現場の基本を忘れずに、有意義な研修を過ごしてください。

最後に皆様が、これから大いにご活躍されますよう祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

## 来賓祝辞

和歌山県教育庁生涯学習局  
文化遺産課

主査 川戸 章寛



本日、第17期となります檜皮採取者(原皮師)養成研修の開講式が、このように盛大に開催されますこと、心からお喜び申し上げます。また、村上会長様はじめ、保存会の皆様方には、平素から大変お世話になっておりますこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、本日より養成研修に入られる、4名の研修生の皆さん、長期にわたる研修になると思いますが、どうぞ、健康に留意され、実り多き研修となるよう頑張っていたきたいと思います。

研修では、実技はもちろん、座学もあり、先輩方や講師の先生方から、多くのことを学ばれると思います。若い皆さんが、この研修を通じて、先輩方の技をひとつでも多く吸収し、成長されることを、切に願っております。

ところで、私が仕事をしております和歌山県では、昨年、世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」の追加登録という大きな出来事がありました。文化財に対する人々の関心もより大きくなっています。また、歴史文化を活かしたまちづくりに力をいれる町も増えてきました。高野山をはじめ、熊野や和歌山以内でも多くの観光客の方が、文化財を見学に来られます。文化財がますます多様になり、関心が高まり、観光資源としての側面にも光が当てられています。文化財行政を取り巻く環境も、どんどん変化しているように感じます。

檜皮葺の屋根は、そうした多様な文化財のなかでも、美しい日本の文化を代表するもののひとつだと思います。そして、それを作り出しているのは、職人の方々の高い技術力であり、その技術の地道な習得こそが、伝統文化を支えていると言っても過言ではありません。その、変わることのない基本を、私自身も改めて認識し、皆さんが活躍できる場を広げるよう、頑張っていきたいと考えております。

このたび、研修に入られる4名の研修生におかれましても、皆さんが習得されようとしている技術は、伝統文化の継承に不可欠な技術である、という誇りを胸に、研修にのぞんでいただきたいと思います。

最後に、研修生の皆さんの今後の活躍と保存会の益々のご発展を祈念し、簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、本当におめでとうございました。

# 来賓祝辞

京都府教育庁指導部  
文化財保護課

建造物担当課長 鶴岡 典慶



本日、ここに檜皮採取者(原皮師)養成研修第17期生開講式が関係者の皆様が多数臨席し、盛大に執り行われますことに対し、心からお慶び申し上げます。

日頃、全国社寺等屋根工事技術保存会におかれましては、文化財建造物の檜皮葺・柿葺及び茅葺の屋根葺技術や材料の確保等につきましてご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。京都府にはご承知のとおり数多くの植物性屋根を持つ建造物がありますが、現在、檜皮葺では国宝清水寺本堂、柿葺では国宝本願寺飛雲閣、茅葺では重要文化財の民家など、著名で重要な建造物などを含めた多くの屋根葺替工事が控えており、特に清水寺本堂のような大規模建物におきましては、一時期に多くの材料と職人さんが必要になることもあり、全体的な需要と供給のバランスがうまく回るか若干心配をしているところですが、また皆様方の御協力をお願いしたいと思います。

さて、先日、京都大学フィールド科学教育研究センターの木材流通を専門にしておられます研究者の方が、修理現場に見学にお越しになられ、檜皮の話題が出ました。檜皮の採取に関しては立木価格の下落とともに、逆に森林所有者の理解が広がっているようだとのことで、近年の学会発表でも、その辺りの話をされたようです。

また、その方がお話を聞いたある森林所有者の方は、代々檜皮の採取に協力されてきた家系らしいのですが、京都府が実施した仁和寺観音堂の修理現場を見学されたそうで、大変感動したと仰っておられたとのことでした。ヒノキ高齢林の所有者が、檜皮の採取を織り込みつつ大径材の育成に取り組んでいただければ良いのではないかとその研究者の方はおっしゃっておられます。

また木材研究者の方から、檜皮の採取による木材への影響も、熟練した作業なら概ね避けられると考えられますとのことのお話もいただき、非常に心強く感じました。

今年度から国庫補助事業で修理を実施する場合、現場見学や冊子作成等の情報公開が義務づけられましたが、これまでから保存会で取り組んでいただいております広報や普及啓発活動が、一般の方にも伝わってきたのではないかとありがたく思います。

檜皮採取については、木材の専門家や生産者に対して理解が広まってきたように思われますが、一方でもし、樹木に影響のある剥き方があるようなことがあれば大変なことになりますので、この研修でしっかりと技術を習

得して、大切な檜を守りながら皮が採取できるように頑張ってくださいと思います。

最後になりますが、今後も全国社寺等屋根工事技術保存会の益々のご発展を祈念いたしますとともに、文化財の普及活動へのご尽力をお願いいたしましてお祝いの言葉に代えさせていただきます。

# 講師祝辞

公益社団法人  
全国国宝重要文化財所有者連盟  
常務理事 事務局長 後藤 佐雅夫



檜皮採取者である原皮師の養成研修第17期生開講式にお招きいただき誠にありがとうございます。研修生の皆様には今日から原皮師として、第一線で研修されるわけですが、何事においても最初が大事であります。体調を十分管理するとともに、この世界は自分に与えられた最高の職場であることの思いを持ってください。

まず、原皮師として、木ペラ・振り縄・コロ・わく等の道具を使って作業して頂くわけですが、道具に使われないうちに、使いこなして頂かなければなりません。そのためには日頃の研修が大切です。幸いにして、保存会には大野浩二さんという立派な師匠がおられます。また、御尊父の故大野豊さんも文化財修理には欠かせない方で原皮のことについて私も教えていただきました。

どの職業でも最初の修行が大切であります。檜皮採取は恵まれた環境ではなく、危険も伴います。檜皮採取の現場には何回も寄せていただきましたが、道具の扱い方、その日の健康管理にも左右されます。皆様には檜皮採取のほかに、文化財の歴史や、樹木に関することも学んで頂きたいと思います。檜は芯・赤身・白太(辺材)甘皮・樹皮からなっていますが、皆様には樹皮だけ取っていただくわけで、甘皮をしっかりと残して頂きたいのです。そのためには高度な技術が求められます。

私は文化財生活65年になりますが、平坦な道程ではありませんでした。どなたも恐れた西崎辰之助先生の弟子になったからです。やっと滋賀県教育委員会文化財係に就職できたのに父は喜んでくれなかったのです。西崎先生の厳しさを同業として知っていたからです。しかし、先生の最後の言葉は君がいて家族が助かったとねぎらいつつも取れる言葉をいただきました。そのおかげで82歳の現在、文化財生活を続けさせていただいています。

皆様も、いやなとき、苦しいときもあることと思いますが、それを乗り越えてこそ立派な原皮師になり、文化財を支えていただく一員になれるのです。原皮師の仕事は自分に与えられた最高の職業であり、自分がいなければ文化財建造物の保存修理工事ができないんだとの信念を持って、今日からの研修を受けてください。

最後になりましたが、保存会の皆様、事務局の皆様にも感謝申し上げ、私の祝辞とします。



イベントにて実演する故大野 豊さん(写真・中央)  
【写真提供/後藤佐雅夫様】

# 激励の言葉

京都市文化市民局  
文化芸術都市推進室  
文化財保護課  
課長 中川 慶太



本日は、檜皮採取者(原皮師)養成研修第17期生として時長祐貴さん、橋本浩太郎さん、松島俊一さん、伊藤元輝さんの4名の方々を新しくお迎えしました。誠に喜ばしいことで、研修生の皆様は、体に気をつけて頑張っていたいただきたいと思います。

今日、文化財を保護していく上で、修理に必要な材料をいかに確保し、伝統的な建築技術をいかに後世に伝え、その技術の後継者を育成し続けることができるかが、非常に重要な課題になっていると思います。

檜皮採取をはじめとした文化財を守るための技術が、「文化財の保存技術」として保護の対象になりましたのは、今から42年前、昭和50年のことです。昭和30年代から昭和40年代にかけてのいわゆる高度成長の時期にあたっており、社会や自然環境も大きく変化し、その中で建造物や美術工芸品等の修復を行う技術者の減少、高齢化が顕著となりました。また、修理するにも、資材・原材料を確保することが困難になるなど、文化財の保存そのものに大きな支障をきたすおそれが生じたことから、文化財保護法の改正が行われ、文化財の保存技術が保護の対象となりました。

そのような高度経済成長期と比べると、現在は文化的な事業に対する社会的な理解は進んでおります。しかしながら、一方で、伝統的な建造物に必要な資材の調達といった、物理的な状況は必ずしも好転はしていないという状況です。それどころか、40年前にはまだ容易に調達できた資材も、手をかけ資金をかけて育てていく時代となっております。

このような状況の下、全国社寺等屋根工事技術保存会様の取組は、文化財保護にとって非常に有意義なものであります。これまでも、本日研修生とられました4名のような方々が、ここ京都市文化財建造物保存技術研修センターで、技術を学ばれ、全国の文化財修復の現場で御活躍されていることは、まことに心強い限りであります。

さて、皆さまもご存じのとおり、4月1日付で発足いたしました文化庁の「地域文化創生本部」が、3日から京都市東山区の庁舎で業務を開始されております。京都市におきましても、国民の貴重な財産である文化財を保護、継承することとあわせて、文化を基軸とした様々な施策と融合して、広く一般に向けて文化財に対する理解を深

める事業に取り組んでまいります。これまで大切に守り伝えられてきた文化財を未来に伝えていくために、文化財の保存技術の継承は、非常に重要であり、今後とも皆様と連携し取り組んでまいりたいと存じます。

結びにあたりまして、これから養成研修を受講される皆様方には、文化財の保存技術者としてますますの研鑽に励んでいただき、将来の文化財の守り手として、御活躍されますことを祈念いたしまして、簡単ではございますが、激励の言葉とさせていただきます。





# 平成29年度 文化財研修会

期 日 ● 平成29年6月16日(金)  
会 場 ● 正暦寺福寿院保存修理現場  
(奈良市菩提山町157番地)  
参加者 ● 114名

今年度の文化財研修会は奈良市にある正暦寺福寿院を会場に開催しました。客殿では柿葺の葺替工事が行われており、研修会当日は奈良県教育委員会 文化財保存事務所 馬場宏道様からご挨拶をいただき、中田宏和様から修理概要の説明を受けたのち、修理現場見学、正暦寺住職 大原弘信様の講話、当会名誉会長 鈴木嘉吉の講演と多くの内容を実施し、様々な角度から知識を深める場といたしました。今後もこういった研修会を通じ、地域の皆さんへの理解も広げながら、技術者にとっては知識の研鑽の場となるよう進めていきたいと思っております。

最後に、研修会にご協力いただきました正暦寺住職大原様を始め、関係各位にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。



石碑「日本清酒発祥の地」の側での挨拶



左から、奈良県教育委員会 馬場宏道様(写真・中央)・中田宏和様の挨拶及び現場説明



正暦寺福寿院保存修理現場の見学



当会名誉会長  
鈴木嘉吉の講演



正暦寺住職  
大原弘信様の講話

講演会場 正暦寺客殿



# 文化財屋根葺土養成研修 第22期生 後期研修 始まる

平成29年度国庫補助事業としての第22期文化財屋根葺土養成研修の後期研修が平成29年5月8日から始まりました。今年度は京都府教育庁 指導部文化財保護課の現場主任、小宮様による解体・保存法、また(一財)建築研究協会の中尾様による日本建築の構造と仕様の座学をはじめ、実技、建築史演習、製図等、約5カ月に及ぶ研修を行います。

技術面では、切妻屋根の模型を研修生だけで葺き上げる実習や、その屋根を修めるための役物皮の材料整形、

現場実習等を経験し、9月の末からは当会賛助会員の厳島神社様の境内にて、研修の集大成ともいえる「卒業現場実習」として実際の檜皮葺屋根を研修生のみで修める実習も行います。研修生においては、お互いに切磋琢磨し日々を無駄に過ごさず、前向きな姿勢で取り組んでいって欲しいと思います。

また最後になりますが、この養成研修が有意義なものとなるよう関係各位の御指導・御協力を何卒よろしくお願ひ申し上げます。



見学



現場見学



実測実習



見学



座学



檜皮の拵え実習



模型実習



模型実習



模型実習



模型実習



模型実習



現場実習



現場実習

# 平成29年度 茅葺初級研修 後期開始

おかげをもちまして、茅葺初級生後期のカリキュラムを開始することができました。昨年に引き続き4名の研修生で行います。初級生と言いましても3年以上の経験のある者ですから、より充実した内容になると思っております。経験を重ねるごとに明らかに、考えや目標も変わってきます。京都研修センターでの講義は、講師の方も昨年同様ですので、より深く掘り下げての内容となっております。そして研修生からの質問は昨年にもまして多くなっており、本当に嬉しく、頼もしく思います。

山南研修センターでの模型実習では、切妻の屋根(伊勢神宮の形)をモデルにし、徹底的に指導しています。講師の方も、今なら式年遷宮を経験された方が多数おられ、今のうちに引き継いでほしいという思いを持たれております。やはり隅を取めるうえで切妻が一番難しいと考えます。ここでじっくりと研修し、20年後の式年遷宮には、少しでもこの経験を活かさせていただけたらと思っております。



座学



模型実習

模型実習



模型実習



模型実習



模型実習

# 檜皮採取者養成研修 第17期生 及び 平成29年度 檜皮採取中級研修 始まる

今年度の檜皮採取養成研修事業には、4名の初級研修生が受講しています。8月21日から京都市文化財建造物保存技術研修センターにて原材料性質と種類や労働安全衛生法などの講義を3日間受け、9月4日には原皮師の道具の一つ「へら」を手作りし、同日に河内長野市の市有林において実技研修を開始いたしました。

4名の初級生のうち2名は経験者、2名は全くの未経験者です。今後出会う色々な指導員の下で、経験者の2名にはこれまでに身につけた技術の見直し、未経験者の2名は少しでも追いつける様に研修に取り組んでもらいたいと思います。

今年度の中級研修生は24名で、9月4日から翌年2月中頃まで全15クール(1クール2週間4~6名)におよぶ採取研修を、近畿中国森林管理局内(全4ヶ所の国有林)・中部森林管理局内(全2ヶ所の国有林)・京都大学徳山試験地にて受ける他、初級研修生の指導の為、九州大学演習林、そして民有林では京都府、三重県にも入っています。

今年度も国有林をはじめ、各山林所有者の方々には当会の研修事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。保存会として研修生の技術向上などの育成に取り組んでいきたいと思っています。

## 初級研修



## 中級研修



# 茅葺師養成研修 第4期生 後期終了

2年を1期として、茅葺の初級研修を行っています。2年目の後期では、より深く掘り下げての実技研修となるよう進めてきました。切妻の屋根模型での実習では、なかなかうまく葺き上げることができず、屋根葺の奥深さを理解してくれたことと思います。講義においても、実技での経験を積む毎に考え方に変化が表れ、より一層真剣に学んでくれたものと思います。なかなか普段の現場ではできないことに取り組み、しかもゆっくり考えながらできること。それは、これからの長い茅葺人生の中で、大変充実した時間であったと確信しております。日本の茅葺界を引っ張っていける存在になることを期待しています。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった関係者の皆様に御礼申し上げます。

## 実習



## 座学



# 平成29年度 茅葺中級研修

9月4日より、京丹後市久美浜町安養寺の木造茅葺鐘楼兼山門を実施現場に、茅葺中級者研修を行いました。この建物は、棟札に宝暦4年(1754)とあり、今から263年も前の貴重な建造物でした。たまたま茅葺の研修で現場提供をお願いしたところ、ご承諾をいただき、せっかく屋根を新しくするのなら、柱等の骨組みも新しくしようと、檀家様一同決意されました。木部は新しくなり、垂木も新たに組み直し、屋根を葺き上げましたが、いつも気をつけているのは、地方性を大切に…ということなのです。前回屋根を葺かれた職人さんを調べ、出来るだけこの地方のやり方を再現しながら屋根を復元、完成させました。

中級の研修生には、難しい部分もあったとは思いま

すが、うまく仕上がっていると感じております。現場を提供いただいた安養寺様、関係者の皆様に御礼申し上げます。



角つけ

下地組み



角ととのえ



破風つけ



軒刈り



葺き替え前



葺き替えを終えた安養寺鐘楼門

# 平成29年度 茅葺きフォーラム 開催

期 日 ● 平成29年9月26日(火)  
会 場 ● 普門山安養寺  
(京都府京丹後市久美浜町安養寺125)

中級者研修の終盤に差しかかったころ、年に1度の茅葺きフォーラムを行いました。毎回全国の茅葺き職人に声をかけ、今後の課題や現状、抱える問題を話し合い、茅葺きという限られた分野での交流を深めていき、発展的に次の時代へと繋いでいくのが目的です。丹後独特の笹葺きについても大いに考えさせられた1日でありました。

京都府の鶴岡様には、大変意義のある講演をしていただき、多くの職人が感銘したことと思います。ご協力いただいた、京丹後市教育委員会 吉田様、文化庁 黒坂様、また、現場、会場とお世話になりました安養寺藤村住職、檀家及び関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



安養寺鐘樓門

## 見学会 「安養寺鐘樓門」

現場説明 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 山田 雅史

## 協議会 「安養寺庫裏」

開会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 会長 村上 英明

来賓挨拶 ● 文化庁文化財部参事官付(建造物担当)修理企画部門 文化財調査官 黒坂 貴裕

京丹後市教育委員会 文化財保護課長 吉田 誠

普門山安養寺 住職 藤村 康信

講演 ● 京都府教育庁指導部 文化財保護課 建造物担当課長 鶴岡 典慶

題目「文化財修理における伝統技術と材料の諸課題について」

討論会 ● 議題「茅葺きの地方性について」

〔司会〕公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員 中野 誠

総評 ● 文化庁文化財部参事官付(建造物担当)修理企画部門 文化財調査官 黒坂 貴裕

閉会挨拶 ● 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 副会長 長崎 真知夫



講演風景  
鶴岡 典慶様



## 見学会



修理現場見学



実習見学

## 協議会



来賓挨拶 黒坂 貴裕様



来賓挨拶 吉田 誠様



来賓挨拶 藤村 康信様



会場風景



討論会風景

# 平成29年度 檜皮採取技術査定会

期 間 ● 平成29年10月5日(木)～6日(金)

会 場 ● 宮島国有林(広島県廿日市市)

今年度の檜皮採取者技術査定会では、初級研修生4名と中級研修生7名の計11名に、指導員2名と指導補助員3名が当たりました。

2日目の予報が雨のため作業が出来ないと判断し、初日の半日ほどで採取から荷造りまでの作業を完了させました。半日ほどの時間だけでは力量を出し切れなかった者もいたと思いますが、通常の研修も考課値に加味されますので、日頃の研修事業に真剣に取り組んで挽回してもらいたいと思います。今年度の研修事業が終了後、査定会での評価と合わせ、来年度の技術ランクを決定いたします。残りの研修には最後まで集中してあたってください。

参加各事業所におかれましては、研修事業へのご協力と研修生への日頃のご指導をよろしくお願い致します。

最後になりましたが、この度の査定会にご協力いただきました広島森林管理事務所及び廿日市市関係者、近隣住民の皆様にご心より感謝申し上げます。



緊張のなか採取に真剣に取り組む研修生



最後の荷造りまで査定会員の目が向けられる



根元にへら入れをする



振り縄とへらを使い皮を剥きあげる



枿に並べた皮を結束する



結束した檜皮(丸皮)を前に集合写真

# 文化財屋根葺士養成研修 第22期生 後期研修 終了

平成29年度国庫補助事業、文化財屋根葺士養成研修第22期生の後期研修は平成29年5月8日より始まり、京都市文化財建造物保存技術研修センターでは、座学、製図の研修を受講し、実技では道具皮の材料整形、4か所の屋根葺現場実習を実施。そして、集大成と言える卒業現場実習では、厳島神社(広島県廿日市市)の御本殿通用門において初級研修生主体で檜皮葺屋根を葺き上げる実習を行い、10月10日、無事全課程を終了しました。この間、研修生は924時間を履修致しました。

前期と違い、後期のより専門的な内容に、研修生の目は生き生きとし、新しい工法、素晴らしい文化財を見学できる建築史演習など、真剣に取り組めていたように感

じました。今後も技術の研鑽に励むのは勿論のこと、この2年間共に切磋琢磨してきた同期生とも連絡を取りながら叱咤激励し、一人前の職人になれるよう頑張っていっていただきたいと願います。

最後になりましたが、関係者の皆様には御礼を申し上げますとともに、今後ご指導ご協力の程宜しくお願い致します。



白石悦二先生による実測実習



檜皮葺屋根模型の軒切り実習



「中入れ」の製作



白石悦二先生による製図実習



後藤佐雅夫先生による建築史演習



高台寺山国有林において労働安全衛生法の講習



卒業現場実習  
(厳島神社 御本殿 通用門)



# 主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

檜皮・柿葺【第17回】●平成29年10月16日(月)～10月21日(土)／5名(檜皮葺師 うち1名は学科のみ)

茅 葺【第9回】●平成29年10月16日(月)～10月21日(土)／2名(うち1名は学科のみ)

平成29年度主任文化財屋根葺士検定会を兵庫県丹波市の丹波市ふるさと文化財の森センターにて行いました。5日間にわたる検定会のうち、指定屋根模型を使用した実技検定には檜皮葺4名・茅葺1名が臨みました。最終日には檜皮葺1名・茅葺1名が加わり、檜皮葺5名・茅葺2名による筆記試験を行いました。

今回は検定員として、(公社)全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤佐雅夫様をはじめ、京都府、滋賀県、奈良県、(公財)文化財建造物保存技術協会の各文化財修理担当の先生方と当会監事及び理事等正会員があたり、檜皮葺合格者3名、茅葺合格者1名という結果になりました。不合格となられた方につきましては、今回の結果を今後の自己技術の向上に繋げられ、次回合格を目指して再度頑張ってください。



## 主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

平成29年度主任文化財屋根葺士認定証更新講習会を平成29年11月25日(土)、京都市文化財建造物保存技術研修センターにて行いました。

この更新講習会は、主任文化財屋根葺士の認定を受け、更新から3年を経過した者を対象に行うものです。今回は、(公社)全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤佐雅夫様を講師に、14名の受講生を対象に日本建築史、社寺建築等の講義を行いました。この講習が新たな発見、知識の充足に繋がるものと考え、今後の仕事にも生かして頂きたいと思っております。



## 平成29年度 檜皮採取者(原皮師)第17期生 終わる

平成29年度の檜皮採取者(原皮師)初級養成研修事業は、4名が入講し、8月21日から京都市文化財建造物保存技術研修センターで座学や採取研修に使う自分のへら作りなどを行った後、9月4日より大阪の河内長野市市有林に入山し、実技研修を開始致しました。

今年度は、採取経験者もあり、研修開始当初はかなりの技術差がありました。未経験者は、大きな焦りがあったと思いますが、10クールに及ぶ研修で様々な指導員

から指導を受け、また経験者も他者の技術を学び、それぞれに技術進歩したと思います。

研修で学んだ技術を1日でも早く自分のものにし、檜皮葺を支える職人になれるように、来年度からは中級研修生としてより一層の努力を期待したいと思います。

この研修にご協力頂いた山林所有者と国有林の関係者の皆様に感謝申し上げます。



## 平成29年度 檜皮採取者(原皮師)中級研修 終わる

平成29年度の檜皮採取者中級研修は、25名の研修生で研修事業を行い、9月4日の奈良の地獄谷国有林に6名が入山し、研修を開始しました。2月16日まで3～6名でそれぞれ15クールに分かれ、1人3クールずつ参加しました。

今年度は、12月から2月の間が例年に比べ大変厳しい寒さとなり、山での研修はかなり辛いものになったと思います。そんななかではありましたが、近年、中級者の技術が向上し、スピードアップが計られ、採取量も増え

てきました。今後も研修生同士が切磋琢磨し、より高い技術を維持し、檜皮葺屋根の質の向上と維持に貢献してくれるものと思います。

今年度も研修林を提供して頂いた近畿中国森林管理局、中部森林管理局の各国有林の関係者の皆様、河内長野市、京都大学、九州大学、またその他私有林の山林所有者の皆様には感謝申し上げますとともに、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## ■ 準会員

[五十音順]

No.	氏 名
1	青木 胤勲
2	青木 照幸
3	青山 亨
4	赤嶺 尚耶
5	赤嶺 怜
6	朝野 達也
7	芦田 健太
8	蘆田 祐明
9	足立 健一
10	足立 大
11	安部 悟司
12	飯野 映雅
13	池田 陽輔
14	石井 潤
15	石井 規雄
16	石川 良三
17	石塚 健一
18	井関 善晴
19	市原 健
20	一色 律男
21	井手 莊和可
22	伊藤 貴弘
23	伊藤 延行
24	伊藤 元輝
25	伊東 洋平
26	糸賀 一道
27	井上 裕貴
28	入江 匠
29	岩崎 正
30	上野 英樹
31	上村 淳
32	梅澤 朋充
33	瓜生 玉樹
34	大崎 悠
35	大藤 義一
36	大西 康純
37	大野 沙織
38	大野 隼矢
39	岡 裕紀
40	岡田 和申
41	緒方 伸也
42	岡野 史和
43	岡本 葉澄
44	岡山 春樹
45	奥田 治郎
46	奥田 正博
47	奥田 讓
48	奥谷 大樹
49	尾崎 良助
50	小澤 翔太

No.	氏 名
51	方山 和也
52	勝部 哲也
53	加藤 貴規
54	金谷 史男
55	金磯 豊
56	包國 眞匠
57	金子 英生
58	上出 健
59	亀井 輝彦
60	嘉本 洋士
61	川田 徳宏
62	川西 鹿久介
63	河野 修二郎
64	菊地 健倫
65	菊池 保
66	岸田 直彦
67	吉川 圭一
68	吉川 晋二
69	木下 和也
70	木下 真介
71	木村 健太
72	清田 幸臣
73	國本 雅史
74	熊谷 一雄
75	栗山 光博
76	栗山 雄二
77	栗山 芳博
78	小池 一平
79	古川 一敏
80	児島 真介
81	児玉 典史
82	後藤 哲夫
83	小西 繁信
84	小林 正之
85	小原 一樹
86	駒 宏樹
87	近藤 竜太
88	酒井 慶伍
89	寒河江 清人
90	坂口 哲也
91	佐々木 孝則
92	佐治 円創
93	澤田 昌己
94	塩田 隆司
95	須賀 均
96	須賀 将志
97	杉井 喜雄
98	杉谷 功
99	大下 倉優
100	高島 優雅

No.	氏 名
101	高平 勝也
102	竹森 暢哉
103	武山 貞秋
104	立木 覚士
105	田中 順也
106	田中 慎一
107	田中 貴也
108	田中 智紗衣
109	寺田 美乃里
110	戸梶 憲幸
111	時長 祐貴
112	中尾 隆二
113	長崎 貴宣
114	永瀬 慶祐
115	長野 直人
116	永原 光敬
117	中村 裕司
118	中森 千尋
119	西 裕之
120	西内 久恵
121	西堀 大樹
122	西村 聡央
123	西村 信生
124	沼澤 修一
125	野上 邦彦
126	野谷 嘉邦
127	BAATARSUREN BAT ERDENE
128	橋本 浩太郎
129	林 直希
130	原田 暢俊
131	東 友一
132	檜 篤広
133	平田 将大
134	平野 健太郎
135	平野 裕也
136	廣内 翔
137	深本 英昭
138	福岡 亮太
139	藤中 竜也
140	淵上 大輔
141	細見 和希
142	細見 知憲
143	細見 裕
144	堀内 博樹
145	本多 亮貴
146	毎熊 徳満
147	横原 孝宜
148	松木 裕紀
149	松島 俊一
150	松村 省弥

No.	氏 名
151	松村 純孝
152	松村 有記
153	三上 和夫
154	三上 直
155	三木 宏祐
156	道繁 康
157	三ツ出 俊平
158	緑川 幹雄
159	峰地 幹太
160	三又 誠也
161	向田 学
162	村岡 伸康
163	村上 章浩
164	村上 貢章
165	森 壮馬
166	森山 淳希
167	矢野 友則
168	山口 成貴
169	山口 宗平
170	湯田 詔奎
171	湯野 尚一郎
172	吉川 一生
173	吉竹 秀紀
174	余宮 祥平
175	和田 琢男
176	渡辺 昌弘
177	渡部 雄太

(2017.4.1現在)



## 発行所

京都市東山区清水二丁目 205-5  
文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064  
<http://www.shajiyane-japan.org>

手  
練

第 13 号

平成 30 年 7 月 31 日発行

## あ と が き


平成30年7月、中部地方も含めた西日本を中心に、豪雨による甚大な被害が発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様やご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。この厳しい暑さの中で、復旧作業が思うように進まないこととは思いますが、被災された地域の一刻も早い復旧・復興と、被災された方々の日常が一日でも早く戻られることをお祈りいたします。

今年の夏は猛暑となっています。現場で作業をされている皆様も、熱中症にはくれぐれも注意し、水分だけでなく塩分補給を心掛けてください。

# 手練

S H U R E N

## 第 13 号

 公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会